

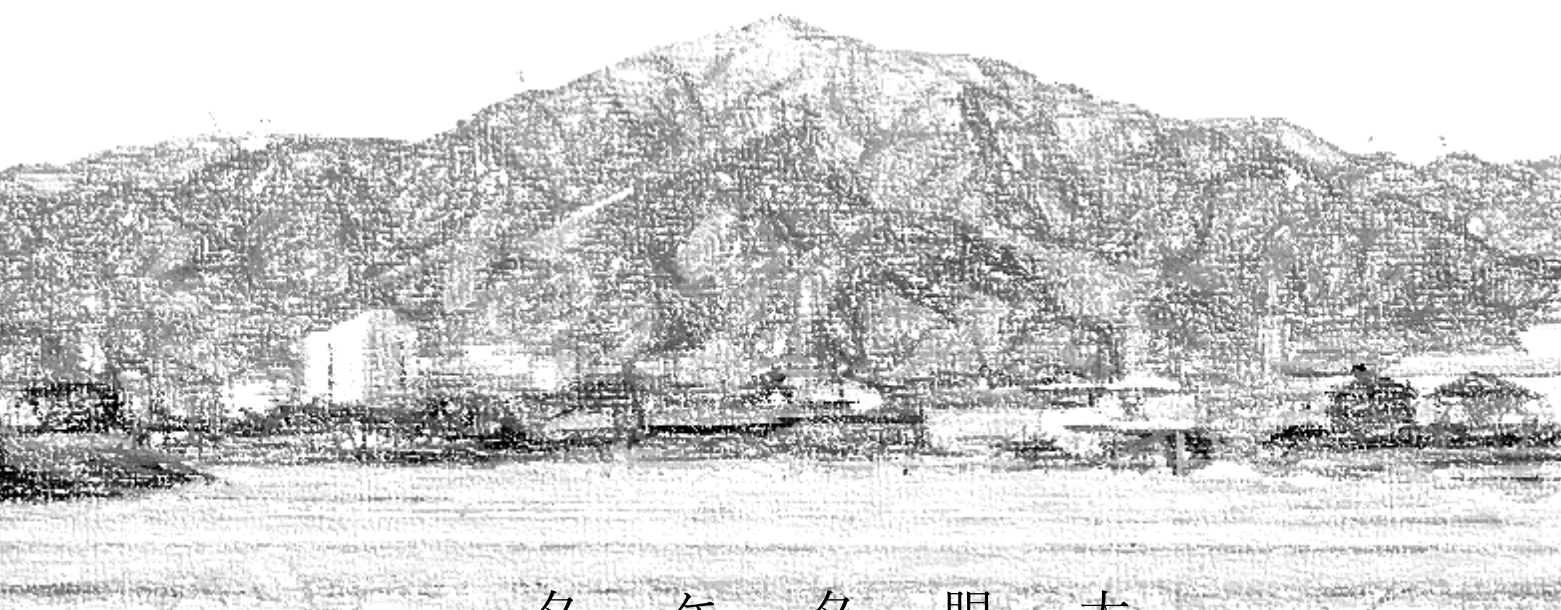
みどり通信

第49号
2025年11月1日

2025

11

令和7 霜月



大山の

眼前広がる

夕紅葉

ケーブル下りて

夕紅葉

「焼津(やいず)」

秋野文子

夏苺郁子先生が焼津市に診療所を開業したのが 2000 年、息子が 25 才の時、感無量だ。

私は小学校入学前にランドセルを買いに静岡に両親と行った。

焼津近くの大崩れ海岸に立ち寄った思い出がある。

私は掛川城三の丸にあった公立幼稚園に通っていた。

ちゃぶ台の回りに座り折り紙をしたり、オルガンに合わせてチューリップの歌を歌ったりした。

瓦町に新園舎ができ移転し大きな幼稚園になり大勢になった。

私は幼稚園に行かなくなった。

両親は、どんな気持ちでランドセルを買いに静岡に行ったのだろうか。

「翠雨の人」

秋野文子

直木賞作家の伊予原新が 7 月に翠雨の人を出した。

私は読めないが関心は持った。

猿橋勝子のことで水素爆弾についての研究者と分かった。

焼津に行ったことはあるし第五福竜丸も知っていた。

親戚の、お兄さんが NHK 静岡の記者で何か取材をしてアナウンスしていたのも思い出した。

アニメのゴジラも水爆のキノコから生まれて、人間に悲しみながら襲っているものだと最近、知った。

私は初代ゴジラを映画館で見っていた。

翠雨の人と猿橋勝子を知った。

知っただけだが。

「わたしの一生」

秋野ふみ

今、わたしは 81 才です。
80 年まえは赤ちゃんでした。



お母さんに、だっこしてオッパイをもらって
いました。

昭和 20 年のことです。

今から 80 年まえのことです。



小学生になりました。

お父さんと、わたしは、なかよしでした。

さんぽをしたり、セミとりに行ったり、晩ごはんを、つくったりしました。

わたしはピアノが好きでした。

ネコふんじゃったを弾きました。ピアノが好きで、幼稚園の先生になりたかったのです。

高校を卒業して、保育のべんきょうをしました。
た。

そつぎょうして保育園の先生になりました。

いないいないばあ、ぐりとぐら、きかんしゃや
えもん、ふきまんぶく、花さき山など読みまし
た。

手のひらを太陽にの歌は、ピアノばんそうを
して、みんなで歌うことは、それはそれは楽しか
ったですよ。



おばあちゃんになってからも好きなこと
をしています。

絵を描いています。



書を書いています。



角野栄子童話大賞応募作品



秋明菊

編集後記

秋が深まっている。

晩秋の花、ほととぎすが咲いている。

秋明菊は亡き同級の友が大好きだった花だ。

私は最近、米寿まで生きようと思っている。

希望を持つようになった。

実際は不明だが、生きたいと思うようになった。

秋野

midori2shin@gmail.com

